

## は し め に

住居は、人間生活の最も重要な基盤の一つであります。住居をただ単に建築的な家屋と考えるのではなく、その本質である人間の生活を行う場所としてとらえることが大切です。住む人の生活意識が重視された住居であることが重要です。また、個人的な生活行為だけでなく、家族や社会と関連のある場所でもあります。生活優先の立場から住居の意義を理解させ、正しい住居観を育てることは大切なことです。

しかし、家庭科教育の中で、住居領域は、被服領域、食物領域と比較して軽く扱われているのが現状であります。住生活に関する生徒の興味・関心は低く、また、指導に当たっては、多様な住生活の実態、指導内容の扱い方や指導方法の難しさなど、さまざまな問題があげられます。

住居領域の学習は、理論学習に傾きやすく、実践的・体験的学習が十分行われているとは言えない実状です。そこで、生徒の日常生活に結びつけて、より具体的に理解させることが重要です。科学的根拠に基づいた指導を行うことによって、生徒の住生活のいろいろな事態に適用しうる能力が形成され、実践力が身につくものと考えます。住生活に必要な知識・技術を習得させるための授業に役立つ資料としてまとめました。これからの住居指導のあり方に何らかの示唆を与えることができれば幸いです。

おわりに、この研究のために調査や資料提供、授業実践等でご協力いただきました高等学校家庭科の先生方に心からお礼申し上げます。

昭和60年 3 月

新潟県立教育センター所長 宮 地 正 樹